

編集後記

『ミクストミュージズ』No.7をお届けします。お陰様で無事刊行にこぎ着けることができて、ホッとしております。やや無粋な表現ではありますが、編集の「実働部隊」の優秀さに改めて驚嘆しています。本学博士後期課程の森本（鳥山）頼子編集長、初山陽子さん、そして博士前期課程の七條めぐみさんと深堀彩香さんの業務能力の高さは特筆すべきことです。本号は、上記の皆さんがそれぞれの研究に没頭する中、こうしたいわば「余剰業務」を快諾して、能率的に進めてくれた賜物です。心より感謝しています。そして、いつもながらのタイトな編集スケジュールにも関わらず、ご寄稿いただいた執筆者の方々にも厚くお礼申し上げます。内容的にもこれまでと比べて遜色のなく仕上がったかと思えます。本学同様、今後、本誌がどういう方向に進むかは分かりませんが、本音楽学コースの研究および各種活動状況を学内外に広く知っていただけるよう努力、精進していく所存です。K.M.

今年は昨年と同じメンバーで編集を行いました。1年ぶりの編集作業だということにもかかわらず、若いお二人はすぐに勘を取り戻し、スピーディーに仕事をしてくださいました。やはり若いっていいですね。来年以降は、頼もしいメンバーがさらに増えることを願っています。最後になりましたが、心苦しくもしつこく原稿を催促してしまった私に対し、執筆者の皆様が嫌な顔一つせずに原稿を提出して下さったことに、心より感謝申し上げます。

Y. Mr.

今年も、有能な森本編集長が、すべてを取り仕切って下さいました。そして、若い二人が昨年の経験を基に昨年以上にテキパキと作業をこなして下さいました。私はほとんど掛け声をかけるだけ、むしろ足を引っ張ってばかりでしたが…。ご寄稿下さった方々を始め、支えて下さった皆様に感謝申し上げます。Y. Mm.

前号に引き続き編集作業に携わせていただき、昨年身に付けたことを生かしながら、また新たに貴重な経験を積むことができました。執筆者のご協力はもちろん、チーフの森本先輩はじめ、編集委員全員の連携プレーで今号が刊行に至りましたことを、大変嬉しく思います。ありがとうございました。M.S.

今号は、非常にタイトなスケジュールでの編集作業となったため、無事に刊行できるのだろうかと心配しておりました。こうして刊行できましたのは、数日間、缶詰になりながら作業をして下さった他の御三方のおかげです。ありがとうございました。A.F.